

# 地域の特性を活かした新しい下関のまちづくり

## (地域住民との協働による地域づくりの推進)

### 1. はじめに

本州最西端の下関市は、平成17年2月の合併により、人口約30万人、面積約716km<sup>2</sup>、東京23区の1.2倍を擁する広大な都市となりました。また、同年10月には県内唯一の中核市へ移行しました。

本市は関門海峡を挟んで九州と相對し、朝鮮半島や中国大陸に近接するという地理的特性により、古くから海上・陸上の交通の要衝として栄え、大陸からの文化の伝来と交流が盛んに行われました。南は関門海峡、西は美しく長い山陰海岸に面し、内陸部は緑豊かな山林、ホタルの生息する河川など、自然環境・景観に恵まれています。また、源平最後の戦である壇之浦の合戦、宮本武蔵と佐々木小次郎による巖流島の決闘、高杉晋作が奇兵隊を結成した明治維新発祥の地、明治28年に日清戦争の講和会議が開催され下関条約が締結されたなど、本市においてさまざまなドラマが展開され、日本史の節目節目の主な舞台に登場しており歴史にも恵まれています。

### 2. 通り過ぎる道から交流を生む「みち」へ

合併し広域化した市域や高齢化、都市間競争、ニーズの多様化等社会経済情勢が目まぐるしく変化していくなかで、地域の特性を十分活かし、自然と人、人と人がふれあう交流拠点づくりを整備していく必要があり、そのために市民との「共創」

の地域づくりが本市においても求められています。

自動車交通への依存度が高い本市においては、渋滞対策・交通安全対策等のハード整備も必須ではありますが、通り過ぎる道から交流を生む「みち」づくりのさまざまな取り組みが盛んに行われています。

平成18年2月に国土交通省中国地方整備局が展開する夢街道ルネサンス事業において、川棚地区が「毛利侯御殿湯街道」の認定を受けました。中国地方に数多く存在する歴史・文化・自然を再発見し、沿道の人々の歴史・文化を育んできた、昔の「街道」を活かす取り組みです。地域づくり、みちづくりを地域が主体となって展開していけるよう国が支援するもので、「毛利侯御殿湯街道」は、川棚温泉まちづくり協議会と連携し、まちづくり交付金「湯町地区」のハード事業とあいまってソフト事業も推進し、より一層の地域の特色を活かした魅力あるまちづくりに寄与しています。

そして、平成19年9月には、全国のトップをきって、“本州最西端の道「風波のクロスロード」～自然の風と歴史の波が寄せる道～”が「日本風景街道」に登録されました。活動エリアは響灘の海岸線を走る国道191号、関門海峡を臨む国道9号を両軸として、国道2号・491号や主要地方道沿線地域一帯を設定しています。(財)下関21世紀協会を事務局として、各種まちづくり団体で構成するパ

下関市長 <sup>え じま</sup> 江 島 <sup>きよし</sup> 潔



ートナーシップを設立しており、今後、さらに中心となる道路の周辺で活動している組織・団体等との調整を図りつつ、有機的に結びつけることによって、地域全域のネットワークを構築し、さらなる地域の魅力の発掘とその利活用を協働して行う体制作りを行おうとしています。

また、本市は全国15箇所で認定されているサイクルツアーモデル地区をもつ都市であり、自転車にやさしいまちづくりを目指し『サイクルタウン下関構想』を平成16年に策定し各種施策に取り組んでいます。平成18年からは、合併で広域化した本市の海や山の魅力を自転車で体感する「しものせきサイクルマラソン」を市民と協働に実施しているところです。平成19年度は1,120名の参加があり、参加者の方々には下関の美しい風景を楽しんでいただくとともに、市民と協働で運営する各エイドポイントの設置やゴール後のふれあいパーティーなどが大変好評であり、市民と協働した運営形態も定着しつつあります。

### 3. おわりに

本市においては、合併した新市のマスタープランである総合計画を策定し、そのなかで、本市の有する多種多様な資源や地域特性を最大限活用した地域づくりを進めていくために、まちづくりの基本理念を「自然と歴史と人が織り成す交流都市」

と定め、この実現に向けて、平成19年度より各種施策に取り組んでいます。

前述のまちづくりの他にも、関門海峡沿いの中心市街地におけるウォーターフロント開発“あるかぼ〜と下関”や日本海側の新港地区における東アジア諸国との国際交流拠点づくりを目指した下関港沖合人工島“長州出島”などの特色のあるプロジェクトも鋭意進めているところです。

合併し広域化した市域において、市民にとって住みやすく、かつ市域内外における新たな連携・交流を生み出す交流都市を目指していくうえで、基幹的な道路整備がこれまで以上に重要であり、「地域の自立と活力の強化」「安全と安心の確保」「安心市街地形成」等のためにも、地域住民と協働しながら地域の特色を活かしたみちづくり、地域づくりをこれからも積極的に推進していく所存です。そのためにも、本市としては、必要な道路財源の確保とそのため道路特定財源の暫定税率維持を強く要望しているところであります。

最後に、歴史千年の舞台である下関、温泉や美しい海岸など魅力あふれる下関、そして、ふく、くじら、あんこうに代表される味覚の宝庫下関に是非足を運んでいただくよう切にお願い申し上げます。巻頭の言葉とさせていただきます。